

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：23019

学校名：札苗北小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	全国平均と本校の記録と比較 同程度・やや上回った種目 長座体前屈・握力・ソフトボール投げ	全国平均と本校の記録と比較 やや下回った・下回った種目 立ち幅跳び・上体起こし・反復横跳び 50m走・20mシャトルラン
体力・運動能力 <女子>	全国平均と本校の記録と比較 やや上回った・上回った種目 ソフトボール投げ・握力	全国平均と本校の記録と比較 やや下回った・下回った種目 長座体前屈・立ち幅跳び・上体起こし・反復横跳び 20mシャトルラン・50m走
運動・スポーツへの意識、運動習慣	運動やスポーツが好き 男子：好き 81.9% やや好き 12.0% 女子：好き 61.7% やや好き 28.7%	友達と交流したり、協力できたときに体育の授業が楽しいと感じる 男子：楽しい 77.6% やや楽しい 20.4% 女子：楽しい 76.2% やや楽しい 19.0%

1. 全身持久力・心肺持久力「動きを持続する力」の向上が必要である。
 2. 巧緻性・筋パワー『ボールを投げる動き』を維持&さらに伸ばすことに重点をおいていく。
 3. 子どもたちの、できるかも、やってみる、楽しいといった「自己肯定感」をイメージし、運動をコーディネートする必要がある。
- ・運動やスポーツに対する愛好的態度、体育の授業で仲間と交流することや協力することに価値を感じている児童が多い。

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
-------	-----------------	-----------------------	---------------------

具体的な取組

児童の実態に合わせた学びの充実

- 「一人一台端末」を効果的に利用した学習。学習の中で自分の動きの課題分析から目標設定。目標達成に向けた意欲の高まりを感じさせ、適切な教師の価値付けを行うことで、質の向上の実感から自己肯定感の醸成を目指す。
- 課題探究的な体育授業の充実。(分かる・できる・楽しい運動を目指した授業づくり、自らの問題意識から課題を設定し、解決しやすい場を選択することができる環境づくり)
- なわとびヒートアップ運動の1年を通した自分の目標に向かって継続的な取組を軸とした体を動かす習慣づくり。
- 跳び箱週間、マット週間等、効率的で活動がしやすい場の設定と環境整備の継続、校内ミニ研修の実施。
- 体力テストの項目に低学年から親しみ、自信をもって取り組める環境を醸成する。

日常の遊びの中から運動能力を獲得

- なわとびカード等日常的な運動の取り組みや運動した時間をキャリアパスポートに記録を残し、振り返っていく。
- 日常の遊びの中から運動能力を獲得できるように、「楽しい」を見いだせるように、「きたえるむ」を設置し、運動環境の整備を継続・強化する。
- ドッジボールコート、縄跳び、的当て等の場を充実させた体育館遊びや外遊びの奨励をしていく。
- グラウンドや体育館を思い切り走る経験を積ませていく。
- 低学年からの遊びを通しての運動習慣獲得を目指す。(先生方も一緒に遊ぶ)

基本的な生活習慣の確立 食育の推進性に関する指導の充実

- 「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発など、基本的な生活習慣の確立に向け、家庭との連携を強化していく。
- 栄養教諭との連携を強化し、適宜「食育だより」の発行、毎日の給食指導など、日常的に指導を継続して行う。
- 養護教諭との連携を強化し、学年の発達段階に応じた保健教育(性に関する指導を含む)を充実していく。
- 委員会活動と連携し、児童の生活習慣の実態把握や健康に関する情報発信等を実施していく。
- 外部講師の活用。助産師「いのちの学習」警察「薬物乱用防止」等のプログラムの実施。

家庭・地域との連携・協働

- 保健体育科の評価規準に基づく学習状況調査の活用(学習カード・観察)
- 全国体力・運動能力テストの結果を考察・分析、運動習慣等調査結果や保健調査結果等を考察・分析
- 児童アンケート・保護者アンケートの活用
- 学校評議員会・学校関係者評価等の活用